

大梅

DAIBAI

Vol.6
Free Paper

大梅拈華山 圓通 正法寺

- 正法寺発展興隆奉賛会協賛者御芳名 - 平成30年度(6月1日~11月30日まで受付分)

北海道第二〇三番	岩手第三三番	長善寺	岩手第三七番	安養寺	宮城第二二番	祥雲寺	宮城第四六番	洞松院
青森第七番	岩手第六番	廣養寺	岩手第三三番	盛岩寺	宮城第二二番	松窓寺	宮城第四七番	城皇寺
青森第三〇番	岩手第七番	清水寺	岩手第二六番	龍昌寺	宮城第二八番	新豊寺	宮城第五五番	龍門院
青森第五三番	岩手第三六番	常光寺	岩手第三三番	瑞雲寺	宮城第三三番	梅林寺	福島第八番	白山寺
青森第九七番	岩手第五三番	廣禪寺	岩手第二七五番	不味庵	宮城第二五番	福敵寺	福島第五番	東泉寺
青森第九八番	岩手第五五番	長壽寺	岩手第二八五番	好心寺	宮城第二九番	真證寺	福島第三番	金源寺
青森第一〇〇番	岩手第五八番	長福寺	岩手第一八九番	宝積寺	宮城第二六二番	長水寺	福島第四九番	大泉寺
青森第一〇二番	岩手第七番	円通寺	岩手第一九九番	妙相寺	宮城第二四四番	西雲寺	福島第七四番	龍稔院
青森第一二番	岩手第九五番	正蔵寺	岩手第三〇三番	千手寺	宮城第二九三番	梅溪寺	福島第二七番	龍台寺
青森第一二番	岩手第一〇二番	光明寺	宮城第九番	瑞雲寺	宮城第二九四番	宮殿寺	福島第二六三番	慶徳寺
青森第四六番	岩手第一〇八番	大雄寺	宮城第二〇番	瀧澤寺	宮城第二九六番	龍洞院	福島第二六七番	東禅寺
青森第四八番	岩手第一六番	報効寺	宮城第一番	宗禅寺	宮城第三〇五番	金蔵寺	福島第二七〇番	千相院
青森第八三番	岩手第二七番	大乘寺	宮城第四番	妙心院	宮城第三〇六番	陽山寺	福島第二七四番	龍門寺
青森第八五番	岩手第一二番	観音寺	宮城第七番	国分尼寺	宮城第三九番	大永寺	福島第二七五番	性源寺
青森第八八番	岩手第二三番	興雲寺	宮城第二七番	秀林寺	宮城第三二四番	光敬寺	福島第二七六番	龍雲寺
秋田第六番	岩手第三八番	妙覚寺	宮城第三四番	江蔵寺	宮城第三二五番	長谷寺	福島第四八番	普門院
秋田第七番	岩手第四三番	補陀寺	宮城第四三番	玉川寺	宮城第三二九番	浄音寺	山形第一二番	正徳寺
秋田第二〇番	岩手第五〇番	林清寺	宮城第四五番	東雲院	宮城第三三〇番	天星寺	山形第二〇番	耕龍寺
秋田第三五番	岩手第五二番	瀧川寺	宮城第五二番	龍香院	宮城第三三三番	金剛寺	山形第二二番	萬松寺
秋田第四七番	岩手第五四番	東傳寺	宮城第五五番	実相寺	宮城第三三七番	建立寺	山形第二五番	宝円寺
秋田第七五番	岩手第五八番	泉流寺	宮城第五六番	大満寺	宮城第三四四番	龍澤寺	山形第三〇番	宝積寺
秋田第七六番	岩手第六三番	蔵堅寺	宮城第六三番	正法寺	宮城第三五五番	昌字寺	山形第三五番	満福寺
秋田第七九番	岩手第六四番	東林寺	宮城第七〇番	興禅寺	宮城第三五二番	安永寺	山形第一七九番	東禅院
秋田第八〇番	岩手第六五番	泉秀寺	宮城第八三番	向泉寺	宮城第三七三番	東昌寺	山形第一八五番	泉高院
秋田第八八番	岩手第六六番	蔵立寺	宮城第九番	法常寺	宮城第三九番	普門院	山形第二四番	源居寺
秋田第九〇番	岩手第六七番	正乗寺	宮城第九二番	高林寺	宮城第三九八番	寶鏡寺	山形第三八三番	松林寺
秋田第一〇三番	岩手第七〇番	長谷寺	宮城第九五番	耕龍寺	宮城第三九九番	満福寺	山形第四三九番	耕田院
秋田第一〇九番	岩手第八五番	龍門寺	宮城第一〇三番	洞林寺	宮城第四〇三番	少林寺	山形第五九二番	高寂寺
秋田第一五二番	岩手第八六番	善龍寺	宮城第一二番	禅龍寺	宮城第四〇三番	清涼院	山形第六三四番	乗慶寺
秋田第一九八番	岩手第八九番	大慈寺	宮城第四四番	自照院	宮城第四〇八番	洪龍寺	山形第七三四番	東光寺
秋田第二〇四番	岩手第九五番	曹溪寺	宮城第五三番	徳本寺	宮城第四一〇番	青龍寺	山形第七四〇番	長心寺
秋田第二二四番	岩手第二〇番	福昌寺	宮城第五四番	高音寺	宮城第四二〇番	玖光院	山形第七四四番	延命寺
秋田第二六〇番	岩手第二二番	松庵寺	宮城第六四番	昌源寺	宮城第四三五番	龍昌寺	山形第七四七番	大洞寺
秋田第三〇八番	岩手第二四番	実相寺	宮城第六六番	観音寺	宮城第四四七番	安養寺	新潟第三九三番	曹源寺
秋田第三三三番	岩手第二五番	恩徳寺	宮城第七七番	珠光寺	宮城第四五五番	廣禅寺	静岡第六〇番	増善寺
秋田第三三九番	岩手第二六番	長泉寺	宮城第一〇三番	洞雲寺	宮城第四五五番	瑞満寺	埼玉第四七〇番	源蔵寺
							埼玉	松野博道

Free Paper

正法寺だより「大梅」第6号
平成31年 1月1日 発行
発行 / 大梅拈華山 圓通 正法寺 | 〒023-0101 岩手県奥州市水沢黒石町字正法寺129
URL / shoboji.net
問合せ / 0197-26-4041
Printed in Japan
本誌掲載の写真・図版・記事等の無断複写・転載を禁じます。

【正法寺末寺護持会事務局より】
今年の総会は諸般の事情から五月二十七日に開催することになりました。
四月に入りましたら末山寺院宛案内状を送付いたします。



平成30年9月29日、両祖忌正當献飯諷經にて導師を勤められる山主老師

御挨拶

山主 盛田正孝

改歳令辰、御尊利・御一同様の福壽無量をお祈り申し上げます。
 お陰様で正法寺も皆様方の御支援により、無事新年を迎える事が出来ました。
 昨年は高祖様の「道心の有様知る人まれなり」との親訓を軸として辦道の有り方を自らに問う一年で御座いました。自分がこの一年でどれだけ成長したかと確認出来る事程、幸せな事はないと先人も申しておりますが、修行僧も又同様に未熟ながらも自分なりに成長している事を確かめる事が出来た事と思っております。
 本年は改元の年に当り正法寺も更なる発展を期するものですが、「させられてする修行」ではなく、僧としての自覚を持って主体的に修行し又、資格を得る為だけの修行ではなく、有資格者であっても自由に辦道出来る大人の修行道場を目指したいと考えております。
 何卒、本年も御指導と御法愛を賜ります様、伏してお願い申し上げます御挨拶と致します。

堂監挨拶

正法寺専門僧堂 堂監
 正法寺末寺護持会副会長
 宮城県洪龍寺住職 永井功雲

することになり、夏制中は第一則「世尊陸座」、冬制中は第二則「達磨廓然」、平成三十年夏制中は第三則「東印請祖」、今冬制中は第四則「世尊指地」を堂長師家の盛田正孝山主老師から堤唱していただきました。

年が改まり東日本大震災から八年目を迎えました。あの日、境内地の東端が海岸を見下ろす断崖となつている自坊の山門前まで津波が押し寄せて来ました。参道真下の檀家の家が流される光景や、多くの檀信徒が避難所や仮設住宅で暮らしていた状態を思い出す度に年賀の挨拶を述べる気持ちに失せてしまいましたことをご了承願います。

平成二十九年二月十五日、正法寺に僧堂設置認可が下り、三月六日の開単式当日、堂監の大役を拝命しました。三月末から夏安居掛搭僧も続々上山し、七月六日の法戦式では僧堂開単の喜びから感涙を押さえての祝語に苦勞しました。法戦は再開単を機に「従容録」第一則から順に修行

正法寺は観応元年(三三〇)崇高天皇から奥羽二州の出世道場として本山格を得て二百六十五年、元和元年(一六二五)江戸幕府の政策により總持寺の筆頭直末となり今日に至ります。この間、幾多の災難を乗り越え、僧堂を維持して参りました。昭和六十年、五十五世の代に正法寺末寺護持会と宗教法人正法寺発展興隆奉賛会を設立し、財政基盤を確立して法堂・庫院・惣門・鐘樓堂大改修、方丈・衆寮新築、等々の大整備事業に取り組み、竣工したのが平成十八年五十七世の代でした。

年号が改まる本年は五十九世盛田老師の下で僧堂の指導体制の一層の充実をはかりつつ、末寺護持会、発展興隆奉賛会が協調して正法寺の諸々の課題解決に向け取り組むべきと考えております。
 今後とも力強い御支援と御助言を賜りますようお願い申し上げます。諸老師各御寺院の隆盛と各位の法臘延長を御祈念申し上げます。新年の御挨拶いたします。

平成30年冬制中 首座法戦式にて祝語を述べる、堂監老師(写真手前)



山主動静報告

【法要関係】

- 九月九日 末寺 岩手県 興國寺 本葬儀 秉炬佛事師 於 岩手県 興國寺
- 九月十二日 宮城県 観音寺 寺族忌焼香師 於 宮城県 観音寺
- 十月二十七日・二十八日 北海道 白麟寺 本堂落慶法要焼香師 於 北海道 白麟寺
- 十月十日・十一日 宮城県 大徳寺 晋山結制 西堂 於 宮城県 大徳寺
- 十一月十二日 東京都 豪徳寺 先住忌 御先導師 於 東京都 豪徳寺
- 十月二十三・二十四日 神奈川県 興禪寺 慶弔會 西堂 於 神奈川県 興禪寺
- 十一月二十五日 末寺 岩手県 龍徳寺 本葬儀 秉炬佛事師 於 岩手県 龍徳寺

【講演会関係】

- 八月三十一日 曹洞宗東北管区センター主催「禅をきく会」 於 仙台市太白区文化センター
- 十月三十日 長野県第一宗務所主催 於 千曲市 上山田文化会館



二〇一九年は當山五十七世守徳大謙大和尚（町田大謙老師）の十三回忌の年です。当時、町田老師の侍者を勤めた當山直末岩手県慈眼寺住職 千枝宗貴師に寄稿を依頼した所、快く引き受けて下さいました。ありがとうございます。
また、町田老師が當山山主に就任するまで住職を勤めた、當山直末埼玉県廣見寺を「大梅」読者の方々にご紹介したいと思いい、昨年十二月初旬に取材をして参りました。取材当日は新潟県からの参拝団も来山されている中、親切に対応下さいました、現廣見寺住職の町田廣文老師にも心より感謝申し上げます。

「五十七世 追憶」

正法寺第五十七世守徳大謙大和尚、町田大謙老師は末山寺院、檀信徒をはじめ、多くの方々に愛された方丈様でした。また「平成の大改修」と言われた正法寺大伽藍の改修工事を竣工まで見届けた方丈様でもあります。侍者として方丈様と共に過ごした月日は私の生涯の宝物です。
十三回忌を迎えるにあたり大謙方丈様を偲び逸話をつ披露させて頂きたく筆を執ります。
十年に及ぶ平成の大改修の竣工を祝い、法堂完成後、初めての一般公開の日。住職として法堂で挨拶をするため文室を出たのはお参りの方々

が来られる二時間前。晩年の方丈様は常に酸素ボンベを必要とされる御身体でした。庫裡から法堂まで行くには長い回廊階段があります。健康ならば二三分もあれば上りきれる階段ですが、文室から回廊階段まで歩いただけでも息が上がっている方丈様の様子を見て「方丈さん、私が背負って上りますから。さあ、どうぞ。」と背中を向けると、静かに首を横に振り「自分の足で歩いて行ってえんだ。」と言。しばし考えた私は「分かりますから。」と言うと「すまん。」とわずかに笑顔を見せ、「二歩、また二歩と階段を上りました。三、四段も上るとゼーゼーと息が上がります。やはり無理だと判断し、もう一度背負っていくことを話すも返事は先と同じ。途中からは一段に分を費やし、額に汗をかきながらも最後まで自分の足で法堂まで到着しました。文室を出てから二時間以上経過していました。完成した法堂を見渡す方丈様は、「立派になったなあ。」と吹き目に涙を浮かべていました。三十分ほど法堂裏で休まれて臨んだ山主としての挨拶では、予定を遥かに上回る時間を話され、満面の笑顔で法堂を後にしました。
大謙方丈様は多くの方に愛された方丈様でした。そして大謙方丈様は正法寺をとて愛した方丈様でした。正法寺で法要出来る幸せは感慨無量であり、報恩感謝の誠を捧げ、大謙方丈様が「よくやった。」と感じて頂ける十三回忌法要を修行したいと思ひます。

岩手県 慈眼寺住職 千枝宗貴

當山五十七世守徳大謙大和尚十三回忌法要は、二〇一九年六月十四日、「當山開祖無底良紹禪師 開山忌」に併せて執り行われます。
前日十三日、「當山五十七世守徳大謙大和尚 速夜献湯諷經」の焼香師は當山直末・岩手県花林院住職 千枝宗貴老師にお勧め頂きます。
十四日、「當山五十七世守徳大謙大和尚 正當献飯諷經」は、大本山總持寺 監院 乙川咲元老師を拜請し、焼香師をお勧め頂きます。



1. 秩父市指定文化財の惣門。平成11(1999)年に落慶した山門、奥に見える法堂へと一直線に立ち並ぶ。2. 平成27(2015)年、現住職の発願により建立された「坂東西国堂」。坂東三十三観音、西国三十三観音、計六十六体の観音様が祀られている。3. 秩父市指定文化財 本堂額縁。4. 開山堂(位牌堂)室内。5. 山門の両脇に安置されている、迫力ある金剛力士像。6. 廣見寺本堂7. 廣見寺現住職 第三十二世 町田廣文老師。



平成三十年度 第二十九回 遊行会布教研修会

遊行会事務局 会計
岩手県北上市 永昌寺副住職 海野義範

さる九月四日から五日の二日間、正法寺専門僧堂に於きまして、遊行会の布教研修会を開催致しました。この布教研修会としましては、六日までの三日間の研修の中、前半の二日間を正法寺専門僧堂内に於いて開催するとうものであり、遊行会会員の長年の念願でもありました。遊行会の研修会のあり方は、僧堂に宿泊しながら修行時代の自分を回顧しつつ、これからの布教のあり方を研鑽するものです。安居僧も少なく、各僧堂に於いて宿泊の対応が難しい中、曲げてお願いをしました所、山主老師が快くお引き受けくださりましたことに会員同感謝致します。

さて、今回の布教研修会のテーマは、「求道とは、いま宗教者に求められているもの」でありました。現代に生きる私たち宗門僧侶がどのように布教をし、どのような行履を行じていくかを問いたたずものであります。講義を聴くだけでなく、実際の行も体験するとう、まさに求道する三日間を過ごします。初日の第一講には、正法寺専門僧堂 盛田正孝山主老師による「欣求の菩提」と題した講義を拜聴しました。私達僧侶が布教をするにあたり、やはり祖師方の歩まれた道を学び研鑽しなくてはならないこと、そして、学ぶだけでなく私

達自身が実践して歩むことの大切さを学びました。その後の薬石のあとは、禅堂に於いて夜坐をおこないました。修行道場の中でも要でありました。普段の私たちでは、なかなか味わう事のできない静けさを全身で感じること

ができ、会員一同、心ひとつに、この研修会の意義を再確認することができました。その後、山内に宿泊し、二日目の朝は、暁天、朝課に随喜しました。僧堂での朝課は、山内役寮大衆の皆さまとの誦経が法堂内に響き渡ります。その後、小食をいただいた後は、昨日に引き続き盛田山主老師による講義「教化衆生」です。私たちが、布教を志す上で、何が大切なのか、話したいことを話すのではなく、聴衆が何を求めているかを察知しなくては、これからの僧侶は世間に通じえないことを学びました。講義

三は、東北大学 鈴木岩弓教授による「イエウキ時代の、死者の記憶」。講義四は、陸前高田市観光物産協会 吉義正氏による「語り継ぐあの日の時そして現今」。講義五は、田の岩手放送 大塚富夫氏による「話し方伝え方」。と多岐にわたる講師の皆様には、熱心に講義をいただきました。鈴木教授には、これからの葬儀のあり方を、實吉氏には、陸前高田市の東日本大震災からの復興途上の現在を、大塚氏には、話すことの大切さと難しさを学ぶことができました。その晩は、宿を東山観光ホテルに移し、盛田山主老師にも懇親会にご参加いただき、二日間の講義を会員一同でふりかえ

りました。三日目は、朝から陸前高田市に立ち寄り、前日に講義をいただいた實吉氏にガイドをしていただきながら、実際に自分たちの目で、震災当初の傷跡から、現在の復興状況を見ることとことができました。被災三県と言われる中で、市全体が壊滅的被害にあいながらも、難を逃れた当地の「てんでんこ」は、新聞で見ただけでなく、実際の場所を目の当たりにすることで、多くの命が奪われた事実を受け止めることができたと共に、人間の強さや言い伝えの大切さを感じることができました。

遊行会布教研修会は、年に一度おこなわれるものであり、正法寺専門僧堂を会場にするのは、今回が初めての事でした。茅葺屋根の法堂に庄倒されながらも、約六七〇年の歴史を味わいつつ研修会を無事終えることができました。研修のみならず、かつての修行生活を思い出せる絶好の機会であり、さらには、正法寺専門僧堂に宿泊をさせていただくという大変貴重な機会も頂戴いたしました。これも一重に、盛田山主老師をはじめ山内役寮の皆さま、さらには大衆の皆さまのお力添えがあつてのこととさせていただきます。ここに深く感謝を申し上げます。遊行会研修会のご報告とさせていただきます。

九月十二日から十四日に掛けて正法寺専門僧堂に於いて僧堂人権学習会が行われました。東北地区（山形県善寶寺専門僧堂、福島県好国寺専門僧堂、岩手県正法寺専門僧堂）、新潟県（大榮寺専門僧堂）の合同開催となり、各僧堂の引率役寮と大衆、當山山内役寮と大衆、及び曹洞宗宗務庁職員を含む計三十三人が参加致しました。

僧堂人権学習

平成三十年度 僧堂人権学習会
於 正法寺専門僧堂

今年度より日程が二泊三日（前年度までは泊二日）となり、人権に関わる近年身近な所で起こっている事例や、過去に起きた宗門内における差別や事件、宗門全体での動き等様々な内容を学び、参加者一同真剣に聴聞しました。分散会、全体会では、これからどんな事ができるのか、どんな行動がとれるのか等、活発に意見が交わされ互いに人権意識向上に取り組みました。

また、十四日の朝課には山主老師が導師をお務めになり「被差別戒名物故者追善法要」も営まれ、曹洞宗宗務総長老師の「供養の言葉」（代読）、誦経の後に参加者一同供養の香を焚き、佛祖の眞前に至心に宗門の差別の歴史を我が事として懺悔すると共に、決して同じ過ちを犯さぬことをお誓い致しました。

熊野大権現大祭祈禱會

當山鎮守 熊野大権現大祭祈禱會が十月十六日に修行されました。今年度より、祈禱法要の前に参列者の方々の法話を取り入れられました。今回は曹洞宗東北管区センター統監當山直末・岩手県遠應寺住職 高橋哲秋老師に御法話頂きました。

祈禱法要は當山直末御寺院様、有志隨喜御寺院様と山内役寮・大衆が般若經を転読する中、参列された大勢の祈願主は、導師をお勤めになった山主老師から理趣分を肩に頂きお焼香されました。

山門並びに檀信徒の繁栄、五穀豊穡、厄災消除、家運隆盛、家内安全、諸願成就及び福寿増進等、全ての人々の幸福な生活を祈願する大法要でした。また今年度は、祈禱法要後に「琴古流尺八 盛岡竹友普門の会」の方々による、虚無僧尺八の献笛が披露されました。

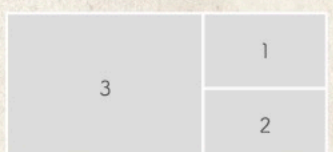
曹洞宗岩手県宗務所 第六教区 両祖忌・人権学習

平成三十年九月二十九日、曹洞宗岩手県宗務所第六教区主催の両祖忌と人権学習が當山にて行われました。第六教区の両祖忌は、毎年教区寺院を輪番で修行されておりましたが、今年度より、當山専門僧堂にて行われる両祖忌に併せて修行される事と相成りました。

大本山永平寺を開かれた道元禪師は、建長五（一二五三）年八月二十八日に五十四歳で、大本山總持寺を開かれた瑩山禪師は、正中二（三三二五）年八月十五日に、五十八歳で示寂されました。両祖大師の示寂された両日を、太陽曆に換算したところ、いずれも九月二十九日となりました。明治十年、太陽曆での九月二十九

日を、両祖大師の御命日として「両祖忌」と定められました。

両祖忌正當献飯 誦經の導師は山主老師がお勤めになり、山内・第六教区の御寺院様共に両祖様の遺徳をしのぶ報恩の焼香を致しました。誦經後、場所を庫裡瑞鳳閣に移し、岩手県奥州市龍徳寺住職の宇津野則昭老師が講師を務め、人権学習が行われました。



1. 参列者に法話をされる、遠應寺住職 高橋哲秋老師。2. 琴古流尺八 盛岡竹友普門の会による虚無僧尺八。3. 祈禱會の導師をお勤められる山主老師。



臘八攝心會・釋尊成道會

十二月二日〜八日にかけて、山内では臘八攝心會が修行されました。臘八攝心は特に、十二月八日に佛道を成就されたお釈迦様の坐禪を追慕する期間として修行されます。

今年の臘八攝心では、岩手県宗務所第七教区御寺院様、有志随喜御寺院様も来山し、山内役寮・大衆と共に攝心修行を致しました。攝心期間中は、山主・後堂・單頭各老師の提唱も行われ、同真剣に拝聴致しました。

八日夜半の成道會献粥諷經は山主老師が導師をお勤めになり、隅中の成道會正當献飯諷經は後堂老師が御代理にて導師をお勤め、それぞれ佛殿(法堂西序)に於いて修行されました。

平成30年度

冬制中 首座法戦式

『従容録』第四則「世尊指地」

10月25日より首座 福山康道(岩手県226番 長林寺徒弟)、書記 伊藤裕磨師(岩手県120番 菅正院副住)、辨事 日澤孝俊(静岡県133番 保蟹寺徒弟)を中心に、冬制中に入りました。11月16日には首座法戦式が修行され、本師、當山直末、岩手県宗務所第六教区、随伴 寺院の御随喜。長林寺・正法寺の檀信徒に参列頂き、滴堂の中で『従容録』第四則「世尊指地」について十人の問者と氣迫溢れる問答を交わし、見事説破致しました。法戦式が終わっても制中期間は継続致しますので、首座を中心に山内一同精進させて頂く所存で御座います。



新任役寮上山

正法寺専門僧堂 講師

松木 昂龍 (青森県 第102番 月窓寺住職)

平成30年10月11日、青森県月窓寺住職 松木昂龍師(34歳)が専門僧堂講師として上山致しました。

松木師は平成18年に大本山總持寺へ安居。平成21年夏制中にて本山首座を務めました。

送行後、平成29年10月に青森県月窓寺への住職辞令を拜命しました。



新到宜しゅう!!

平成30年 正法寺専門僧堂 冬安居 上山者紹介



佐々木 正圓
(秋田県 第183番 西法寺徒弟)
私に出来る人助けが無いかと思い、正法寺に修行へ参りました。



日澤 孝俊
(静岡県 第133番 保蟹寺徒弟)
修行をしながら仏道について学びたい。



築地 龍成
(青森県 第114番 瑞泉寺徒弟)
自分の為になり、人の為になることを進んで取り組み、修行に臨みます。



斗ヶ澤 祥治
(岩手県 第4番 長松寺徒弟)
精進の日々の中で、生き、生かされている幸せを感じていきたい。

茅葺探訪

Vol.01

今号より「茅葺探訪」と題し、全国の茅葺屋根の塔頭や建物を所有する、寺社佛閣等を紹介していく連載を開始致しました。御寺院様はもちろん、一般檀信徒や参拝者、観光客の方々にも楽しんでながら、「茅葺屋根」に興味を持って頂ける連載にしていきたいと存じます。

記念すべき初回は、天台宗別格本山毛越寺「常行堂」です。

行楽シーズンで大変お忙しい中、快く取材を御承諾下さいました毛越寺様に心より御礼を申し上げます。

大泉が池と紅葉樹に囲まれる常行堂



医王山 毛越寺

Iozan Mutsuji Temple

天台宗の別格本山毛越寺は、仁明天皇の嘉祥三年(八五〇年)、天台宗山門派の祖 慈覚大師円仁(七九四〜八六四年)が開いたと伝わる、岩手県西磐井郡平泉町にある名刹です。

平安様式の本堂にお祀りされている御本尊 薬師如来像は平安時代の作。その脇侍として日光・月光両菩薩、周囲には本尊守護の四天王が安置されております。

境内は「毛越寺境内附鎮守社じしん」として国の特別史跡、庭園は「毛越寺庭園」として特別名勝に指定され、毎年二十〜三十万人の参拝者や観光客が訪れる岩手県内屈指の観光名所でもあります。

平成二十三年(二〇二一年)六月二十六日、「平泉(仏国土(浄土))を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」の構成資産の一つとして、ユネスコ世界文化遺産に登録された大きな話題となりました。

毛越寺 常行堂

Motsuji Temple Jogyodo Hall

一ノ関藩田村家藩邸の中門で、大正十二年に寄進されたという山門を抜け、本堂へと続く参詣道を進むと右手に木々の間から「大泉が池」が見えてきます。大泉が池の向こう岸、北東の方向に位置する茅葺屋根の建物が「常行堂」です。

毛越寺の常行堂は、享保十七年(二七三二年)、陸奥仙臺藩第五代藩主伊達吉村公(二六八〇〜一七五二年)の武運長久を願って再建されました。建築様式は宝形ほうぎょう造、堂内須弥壇の中央に御本尊宝冠阿弥陀如来、その両側に四菩薩がお祀りされております。

常行堂は天台宗において、「常行三昧じょうぎんさい」の行を修行するために建てられた佛堂で、日本では仁寿元年(八五二年)慈覚大師円仁が比叡山(滋賀県)に建立したものが始まりとされております。お堂では九十日間、御本尊阿弥陀如来の周囲を、念佛をお唱えし、また心に阿弥陀如来を念じながら歩く

行を修行致します。また、常行三昧とともに天台宗の重要な行とされる「法華三昧ほっけさんまい」を修行するためのお堂である法華堂と二緒に建てられることもあり、二つのお堂を渡り廊下で結び「荷にい堂」と称されることもあります。

毛越寺も、現常行堂のすぐ脇に「常行堂・法華堂跡」があります。発掘調査で旧法華堂と旧常行堂は、二つのお堂を結ぶ渡り廊下とともに「荷い堂」として計画・建立され、ある時期まで並存したと考えられているそうです。

常行堂の堂内奥殿には秘佛摩多羅神ぼたらしんが祀られております。摩多羅神は修法と堂の守護神であり、この地域では古くから作物の神様としても信仰されております。奥殿の扉は、通常は固く閉ざされ、二十三年に一度御開帳されます。祭礼の正月二十日は、古式常行三昧が修行され、国の重要無形民俗文化財「延年の舞」が奉納されます。

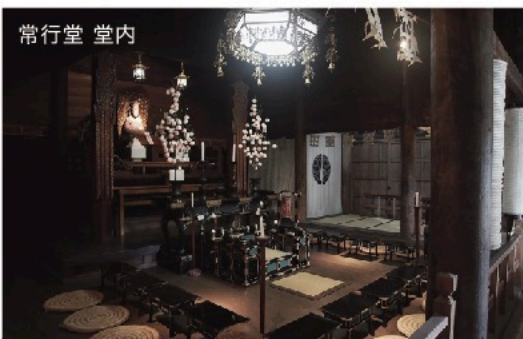


天台宗 別格本山 毛越寺

〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉大沢58

拝観時間 / 午前8時30分〜午後5時 ※11月5日〜3月4日は午前8時30分〜午後4時30分
拝観料・交通案内・観光ガイド等の詳しい情報は公式Webサイトからご覧いただけます。

世界遺産 毛越寺



常行堂 堂内



常行堂御本尊 宝冠阿弥陀如来



毛越寺 本堂